# 2 ［小説］ 『海の見える街』

　平日午前中の図書館はａカンサンとしている。

　大きな駅に近いところだと、リストラされた人やホームレスの人が昼寝したりしているらしいけれど、こんな山の上までは来ない。私が子供の頃は近くに小学校と幼稚園があるだけで、木に囲まれた山の中にある図書館という感じだった。この十年くらいの間に駅につづく坂道沿いに建売住宅やマンションが増えた。

　小学校と幼稚園の生徒数も増えたみたいで、午後になると二階にある児童館に来た子供達が三階の図書館にも来る。図書館だから静かにしてなんて言っても子供達には通用しない。他の利用者さんも騒がしいのは分かっていて怒ったりもしないから、軽く注意するだけだ。それでも本を傷つけたりけんかしたりしないか見ている必要があるし、絵本の読み聞かせ会や紙芝居もあって、午後は忙しくなる。事務仕事やｂショダナの整理はできるだけ午前中のうちに終わらせる。利用者さんが少なくてもやることはたくさんあるのだけれど、たまに本当に何もやることがなくなり、カウンターに座ってぼうっとしてしまう時がある。

「何かやることないの？」ｃトナリに座っている鈴木さんが言う。キャスター付きのの上に体育座りしてクルクル回っている。

「ないですよ」転んで怪我して、しばらく休めばいいのにと思って念を送ってみるが、効果はなくて椅子の動きが止まった。

　今の時間はカウンターに二人しかいない。本田さんがカウンター裏にある事務室で仕事をしていて、他の人は一階にある喫茶店にコーヒーを飲みに行っている。

「つまんない」鈴木さんはカウンターにを立ててをつく。「館内巡回して、どこにどの本があるかおぼえたりすればいいじゃないですか？」「①そんなのパソコンでｄケンサクすれば分かるじゃん」

「じゃあ、黙って座っててください」「つまんない。つまんない」

　鈴木さんは今年の七月から来ている派遣の職員で、司書資格を持っていない。私と同じ年なのだけれど、最初をしくじったせいで、私は鈴木さんに敬語を使い、鈴木さんは私にタメ口で話す。私は司書資格を持っている正規職員でここで二年半も働いているのに、誰もそのことを気にしてくれない。派遣より正規が偉いと言ったり、資格を持っているのを理由にったりするのは問題があると思うが、とりあえず私の方が先輩だ。②本田さんが前に一回だけ鈴木さんに言ってくれたけれど、言い方の弱さとタイミングの悪さによって軽く流された。（中略）

　鈴木さんはかわいい。年配の職員が圧倒的に多い市民センターの若ければもてはやされるレベルではなくて、世間的に見ても標準のか上をいく顔をしている。働きはじめた頃はギャルみたいな派手なｅケショウと服装をしていて、それだけやれば誰でもかわいくなると思っていたが、チノパンをいて地味にしても女の子らしく見える。ふわふわした長い髪や、ツヤツヤ光るリップグロスや、ウエストが細く見えるシャツのシルエットを細かく計算しているのだろう。

　③そんな鈴木さんが市民センターレベルのかっこいいでしかない本田さんを相手にするはずがないと思っていたのに、二人の間には何かある。付き合ってるまで話が進んでいる感じはしなくて、その何かが何かははっきり言えないけれど、確実に何かある。

●語注

チノパン＝チノ・クロス（厚地の綾織の綿布）で作られたパンツの略。

リップグロス＝唇に透明感やつやを出すため、口紅の上から塗るケショウ品。

◆漢字

本文中の二重傍線部ａ～ｅのカタカナを漢字に直せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　ここに登場する図書館について、あてはまるものを次からすべて選べ。 7点

ア　大きな駅の近くにある。

イ　近くには小学校と幼稚園しかない。

ウ　二階が児童館になっている。

エ　ホームレスの人が昼寝をしている。

オ　山の上にある。

〔　　　　　　　〕

問２　語り手である「私」の人物像としてあてはまるものを次からすべて選べ。 7点

ア　20代　　　イ　女性　　　ウ　司書

エ　意地悪　　オ　よその街から来た人

〔　　　〕

問３　「本田さん」の人物像としてあてはまるものを次からすべて選べ。 7点

ア　男性　　イ　図書館職員　　ウ　世話好き

エ　年配　　オ　「私」の後輩

〔　　　〕

問４　傍線部①の指示内容を本文中から抜き出して答えよ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部②とあるが、何を「言ってくれた」のか。二〇字以内で説明せよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　傍線部③とあるが、「鈴木さん」がどうであるというのか。最も適当なものを次から選べ。 7点

ア　チノパンを穿いて地味にしていること。

イ　年配の職員のあこがれのまとであること。

ウ　ギャルみたいな派手な服装をしていること。

エ　ふわふわの髪やツヤツヤのリップグロスをしていること。

オ　世間的に見てとてもかわいい女性であること。

〔　　　〕

問７　「私」は鈴木さんに対してどのような感情を持っているといえるか。最も適当なものを次から選べ。 7点

ア　好意　　イ　不信感　　ウ　友情

エ　嫉妬　　オ　軽蔑

〔　　　〕

【解答】

漢字　ａ閑散　ｂ書棚　ｃ隣　ｄ検索　ｅ化粧

問１　ウ・オ

問２　ア・イ・ウ

問３　ア・イ

問４　どこにどの本があるか

問５　先輩にタメ口で話すのはおかしいということ（20字）

　　（別解）先輩にタメ口で話してはいけないということ（20字）

　　（別解）先輩には敬語で話した方がよいということ（19字）

問６　オ

問７　エ

■覚えておきたい語句

□2　リストラ…リストラクチャリング。企業の業務体質の再編成。多くは、人員削減の手段による。

〔人物の把握〕

　本文では、《人物》の読み取りが特に重要となる。

　語り手である「私」は、どのような人物であるか。

　「私」と鈴木さんの関係はどのようなものか。

　「私」は鈴木さんにどのような感情を抱いているか。

　「私」と本田さんの関係は、……。

　「私」を中心に、鈴木さんや本田さんと人物相互の関係を読み取っていくことが大事である。

〈作者＆出典〉畑野智美（はたの・ともみ）一九七九年（昭和54）東京都生まれ。東京女学館短期大学国際文化学科卒業。ファミリーレストランでのバイトをはじめ、新聞社、映画館、出版社などでアルバイトを続けながら小説家を目指す。二〇一〇年、『国道沿いのファミレス』で第23回小説すばる新人賞を受賞。二〇一二年『夏のバスプール』。本作『海の見える街』（講談社、二〇一二年）が三作目となる。ほかに『南部芸能事務所』がある。

【読みのセオリー】

★人物を読む

　人物は、小説の基本的な設定の一つ。小説の読解では、登場人物の年齢・性別・職業・性格・容姿など、人物についてわかることを読み取っていく。それらは、文章にはっきりと示されていることもあれば、いくつかの手がかりから推理していく場合もある。まずは、人物像が読み取れる表現を見つけていくこと。

■読みのセオリー［実践］人物を読む

問２　「私」の人物像は？

①鈴木さんは、私と同じ年。

②私は［１　　　　］を持っている正規職員で、ここで二年半も働いている。

③鈴木さんはかわいい。

　［２　　　］ればもてはやされるレベルではなくて、

～チノパンを穿いて地味にしても［３　　　］らしく見える。

　　↓

①②③より、「私」の年齢は［４　　　］代と読める。

〔解答〕　１司書資格　２若け　３女の子　４二十

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問６　傍線部③とは、鈴木さんがどうであるというのか、二〇字以内で説明せよ。

［答］世間的に見てとてもかわいい女性である（こと）

＊新問

問　鈴木さんの人物像としてあてはまるものをすべて選べ。

ア　20代

イ　司書

ウ　派遣の職員

エ　「私」の先輩

オ　本田さんの恋人

［答］ア・ウ

＊新問

問　「私」と鈴木さんが話をしている場所はどこか答えよ。

［答］（図書館の）カウンター